

## 会場審査員賞

### 「日本語のおもしろさ」

専門学校で観光や簿記を学んでいます。卒業後は日本語能力を生かせる仕事をしたいと思い、就職に必要な資格取得に頑張っています。毎年、この大会をテレビで見ている、自分も出場したいと思い応募しました。

#### バッタライ ジナス

Mr. Jinash Bhattarai

(ネパール・専門学校生)

おはようございます。

明日香国際コミュニケーション専門学校二年生のジナスと申します。ネパールから参りました。日本に来てから四年目です。今日は私が日本語を勉強してきた中で面白いと思ったことを紹介させていただきます。

私は来日するまではネパールの日本語学校で勉強していました。日本語は習い初めのころは難しかったんですが、日本に留学するためには日本語を覚えざるを得ませんでした。ある日初めて日本人の先生が学校にいらっしゃいました。日本人の先生と話す機会が初めてでしたのでできるだけ日本語で話す努力をしました。授業が終わって先生に挨拶をして玄関まで行きましたがまた戻りました。先生が私を見て「ジナスくん、どうしたの??」と言って来ました。私は「口がありません」と答えました。うまく伝わらなかったのか、先生にまた「何」と言われました。私は今度は「下においた口がありません」と言いました。先生に「お前馬鹿」と言われました。実は靴がありませんと言いたかったんですが、ひらがなのたった一文字を間違えたことで初めて日本人に馬鹿と言われました。そんな間違いをした自分のことを自分でも馬鹿と思いましたし、その時周りにいた友達から今でもからかわれています。それからは、発音などにも気をつけるようになりました。

日本に来てからさらに日本語の面白さがわかるようになりました。漢字は私たちネパール人にとってはとても難しいです。たくさんの漢字がどう見ても私には虫のアリが踊っているように見えました。そのため漢字を勉強する時に意味を勝手につけていました。たとえば困るだったら、木を箱に入れたら困るとか、お皿が盗まれると次の皿とか。しかし、びっくりしたのは親切の漢字を習ったときです。先生が親切というのは優しいという意味ですとおっしゃっていましたが漢字を見ると全然優しそうには見えませんでした。せっかくなのに、何で親を切る人が親切なんだろうと思いました。その理由はいまだにわかりません。

日本にはカタカナもあります。私はカタカナのほうが漢字より楽でいいと思います。カタカナは漢字より書くのも簡単だし、英語も話せる外国人には助かります。しかし、日本人がカタカナを使うところで時々気に入らないことがあります。例えば、写真を撮る時に日本人がよく使うチーズという言葉です。アメリカ人がチーズと言うときはとてもすてきな顔になりますが日本人が言うと、なんか変に見えます。たとえば私の顔をみてください。(表情を見せます)

それから、日本人は褒めることが好きだと思います。よく「日本語うまいですね。下手な日本人よりはうまいですわ。」と言われるからです。しかし、何で下手な人と比べるんですか、どうせ褒めるなら、上手な人と比べてほしい、といつも思います。また、「ジナス君、そこらへんの日本人より上手。」とも言われますが、そこらへんと言うのがどこかを教えてほしいです。

こんな風に日本語には面白いところがたくさんありますがそれに笑うだけじゃなくて、それに興味を持ちながら勉強をしたことをよかったと思っています。日本語を勉強してから初めて年上の人や上司を尊敬するのみならず、きちんとした言葉使いをしないといけないという大人としてのルールも習いました。日本語を長く勉強していなかったら、上司にも「メシを食え」と言っていたかもしれません。それに、日本人の相手を褒めてあげる習慣のおかげで、次も挑戦していきたいと思うようになりました。友達でも様々な褒め言葉を言ってくれたら更に仲良く感じると気がつきました。それに、あの日先生に馬鹿と言われた後、それで落ち込んで、日本に留学することを諦めていたら日本で4月に咲くきれいな桜を見ることはできなかったと思います。

これからも、日本語をもっと覚えて、いつか私もみなさんと同じように日本語で困らない生活ができるようになると信じています。